

## 令和2年度第2回行政評価委員会（しごと部会）会議録

### 1 開催日時

令和2年9月11日（金） 午後1時30分～午後3時

### 2 開催場所

花巻市役所本庁舎 3階 302・303 会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 6名

影山一男委員（部会長）、八木浩委員、高橋徳好委員、高橋誠委員、久保田廣美委員、佐藤有莉委員

#### (2) 説明者（施策主管課及び関係課） 1名

商工労政課：伊藤昌俊課長

#### (3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課企画調整係：小田島大介主査

財政課経営財務係：松田隆課長補佐

### 4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「技術力・経営力の向上」について評価を行った。

#### (1) 施策主管課による説明、質疑応答

#### (2) 委員会の評価結果集約

### 5 議事録

#### (1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

影山一男部会長：成果指標の「市の支援により技術力・経営力の向上に取り組んでいる企業数」について、①企業競争力強化支援事業を活用した事業所数、②産業支援アドバイザー・専門アドバイザーの派遣を受けた事業所数、③起業化支援センターコーディネーターが支援した事業所数、の3つの合計値となっているが、それぞれの実績値の内訳があった方が分かりやすいのではないかと。

伊藤昌俊課長：ご指摘ありがとうございます。ちなみにH31年度の実績として①が63件、②が1件、③が162件の実績。H30年度は①が67件、②が4件、③が63件となっている。

影山一男部会長：分かりました。そうすると、起業化支援センターのコーディネーターの活躍によりこの実績が伸びているということですね。

もう一つの成果指標「融資実行件数」について、設備投資の新規貸付件数をカウントしているとのこと。設備投資はいずれ固定資産の増加に繋がって、市として税収が上がるというメリットがある。ただ、企業の技術力・経営力の向上を示す指標とするの

であれば、事務事業評価シート（中小企業振興融資事業費）に記載のあるとおり、運転資金等も含めた融資件数全体の件数を指標とした方が分かりやすいのではないかと。伊藤昌俊課長：設備投資があれば生産が増え、技術力・経営力の向上に繋がるであろうという考え。また、融資全体の件数となると運転資金の面、例えば12月に従業員のボーナスを払いたいから融資を受けたいといった場合もある。安定的な運営が経営力の向上に繋がるのかもしれないが、これまでは設備投資のみをカウントしてきたという実情。

影山一男部会長：了解した。事務事業評価シートの中に設備投資の融資件数等、内訳があると分かりやすいと思う。数字がどこから出てきたものか分かりにくい部分があった。

佐藤有莉委員：成果指標の「市の支援により技術力・経営力の向上に取り組んでいる企業数」について、企業の経営課題は長期的なものだと思うが、どのくらいの期間支援を受けた企業数なのか。

伊藤昌俊課長：この指標はあくまでも年度ごとにカウントしているもの。H31年度の226件という実績は、昨年度企業から相談を受けて市として支援させていただいた件数となる。支援によって課題が解決したかどうかは別な話になるが、何年もかけて課題研究している企業や支援によって改題が解決できた企業など、様々ある。

影山一男部会長：継続して相談、支援している企業数が分かればそういったデータも記載した方が分かりやすいと思う。技術力・経営力の向上はやはり長期的なものである。

久保田廣美委員：企業競争力強化支援事業の具体的な内容や実績について教えてほしい。

伊藤昌俊課長：企業競争力強化支援事業のH31実績63件のうち最も多いのは、人材育成で26件。従業員に何か資格を取らせたいときに支援するもの。次いでブランド化推進、企業のパンフレット等の作成にかかる経費への支援が20件。展示会への出展に対する支援が9件。ただし、こういった支援を行ったことで企業の売上等がどの程度伸びた、といった聞取調査までは行っていない。

久保田廣美委員：昨年度の補助実績が約980万円であり、63件で単純に割り返すと1社あたりへの補助金額はあまり多くないと思うが、補助額上限アップ等の声はないのか。

伊藤昌俊課長：補助金額として大きいもので上限50万円（補助率1/2）、小さいもので上限15万円（補助率1/2）、となっている。企業の皆様にとって上限額は高ければ高いほどいいとは思いますが、市の財政力の面からも現在の上限、補助率の中で後押しさせていただきたいと考えている。

高橋誠委員：メニューによって予算上限に達したため交付できなかったもの、あるいはあまり使われないメニュー等はあるものか。

伊藤昌俊課長：H31年度は予算額1,300万円に対し決算額は980万円。予算上限に達したため補助金を交付できなかった、お断りした、ということはない。

八木浩委員：共同研究開発に関する支援実績について教えてほしい。

伊藤昌俊課長：H31年度に産学官連携と企業間連携を統合したが、H31は1件。別々にメニューのあったH30は産学官連携が1件、企業間連携が1件、H29は産学官連携が1件、企業間連携が2件であり、こういった活用実績が減ってきている背景も補助メニューを統合した要因。

影山一男部会長：企業のメーリングリストについて、390社ほど登録しているとのことだが、これは市内企業の何割カバーしているものなのか。

伊藤昌俊課長：統計上、約4,200事業者であることから、1割弱ほど。

## (2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

### ● 「◎前年度評価の振り返り」の「反映状況」について

影山一男部会長：前年度の評価に関する反映状況について、しっかり記載されているように感じるが、皆さんいかがか。

全委員：よし。

### ● 「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

久保田廣美委員：設備投資の融資実行件数が伸び悩んだ理由として、企業の景況感に減速感がみられ、と記載してあるが、米中貿易摩擦や消費税増税といった具体的な理由を記載したほうが分かりやすいのではないか。

影山一男部会長：事務事業評価シートには消費税増税のことが記載されている。施策評価シートにもそういった具体的な理由を記載した方が確かに分かりやすい。皆さんよろしいか。

全委員：よし。

### ● 「4 施策を構成する事務事業の検証」について

影山一男部会長：施策を構成する事務事業一覧の成果がCのものについて、記載、検証されており、記載内容は特に問題ないように感じるが、いかがか。

全委員：よし。

### ● 「5 施策の総合的な評価」について

影山一男部会長：制度の活用に至っていない企業がある、周知が必要だ、といったことは記載されているが、活用に至っていない理由や周知方法など具体的なものがあまり記載されていない。

八木浩委員：「4 施策を構成する事務事業の検証」に記載されているが、制度を伝える前に、その情報を伝える仕組みの構築が難しい。その仕組みを整備しないと、なかなかタイムリーに情報を伝えることができない。

影山一男部会長：書き方としてはこれで正解だとは思いますが、やはりもう少し具体的な記載がないと。

高橋誠委員：制度は知っていたが使わなかった企業がどれくらいあるのか、そういったことが分かればもう少し具体的な評価、分析ができるのかもしれない。

高橋徳好委員：企業側の目線だと、制度自体が分かりにくいというよりも自分の会社は該当しないのではないか、といった疑問があるという面も大きいと思う。例えば金融機関であれば、同じ制度でもこうすれば大丈夫ですよ、対象になりますよ、といった指導をしてもらえることが多い。行政としてなかなか難しいことだとは思いますが。

影山一男部会長：制度の周知方法等は検討する必要があるが、総合的な評価はなされているということによろしいか。

全委員：よし。

●「シート記載内容全般」について

影山一男部会長：「5 施策の総合的な評価」の部分でも議論したとおり、例えば制度の活用に至っていない、その具体的な理由や分析がなされていないように感じる。制度活用に向けた解決策が制度の周知、徹底だけでは不十分ではないか。

高橋誠委員：全体的にコンパクトにまとめられていて、文章として正確に書かれていると思うが、やはり具体的な記載が少ない。

久保田廣美委員：「前年度の評価の振り返り」には支援メニューのスクラップアンドビルドと記載されているが、「4 施策を構成する事務事業の検証」には支援メニューの拡充や見直しと記載されている。今回の施策に限らず、市民目線で考えると、できるだけ横文字は控えた方がいいかと思う。

影山一男部会長：成果指標の測定方法が複数事業の合計値となっていて分かりにくく感じた。事務事業評価シートの数値と統一する等、方法はないものか。

高橋徳好委員：シートの作り、フォーマット自体が非常に分かりにくい。知りたい情報はどこを読めばいいのか、どこに書いてある内容なのか、シートが分かりにくいことで施策の評価に行き着くまでに時間がかかってしまう。